

## 創立一二〇周年記念式典挨拶

この松本蟻ヶ崎高校の敷地もいよいよ秋が深まり、キャンパスの樹々も、いつしか色づきを濃くしています。

本日ここに、長野県松本蟻ヶ崎高等学校創立一二〇周年記念式典が挙行できますこと、まことにありがたく、まずもって心よりお礼を申し上げます。また、このような式典を開催してくださいました記念事業実行委員会の皆様にも、学校を代表して厚くお礼を申し上げます。ただ、感染症の影響下、本校にとってゆかりの深い多くのご来賓・ご招待者の皆様がたのご臨席をたまわることが叶いませんこと、学校としてもたいへん申し訳なく、衷心よりおわびを申し上げます。

本校は明治三十四年に松本高等女学校として開校いたしました。昭和二十四年には、松本第二高等女学校を前身とする松本真澄高等学校と統合、昭和五十年には男女共学となり、地域の皆様、卒業生の皆様に支えられて、本校は一二〇年間の歩みを進めてまいりました。

蟻ヶ崎地区は明治二十二年までは蟻ヶ崎村と呼ばれ、のちに松本市蟻ヶ崎となりました。鷹匠町から蟻ヶ崎東の街中を抜けて現在の久保田外科医院の十字路に至るまでが旧蟻ヶ崎の通りであり、それより上は畑で、りんごや桑や麦、それに大豆などの雑穀を作っていました。道は畑道になっていました。昭和十年、松本中学校（現松本深志高校）が蟻ヶ崎の地に移転してから、正面道路が開いて周囲がすこしずつひろげてきました。

大門沢川は、松本城下の北側の武家の居住地と、農民の居住地とを分けていました。大門沢川の北側に位置する蟻ヶ崎は、いま述べましたように、以前は蟻ヶ崎村と呼ばれるサトのムラでした。明治二十二年、松本市蟻ヶ崎になったのちも、サトの雰囲気を色濃く残していました。蟻ヶ崎東の地籍には姫宮神社があり、マチ場の女性たちの信仰には篤いものがありました。本校のすぐ北に鎮座する塩竈神社へは、金属製のひしやくの底を抜いて奉納し、安産を祈願しました。マチ場の人たちがさまざまな不安をかかえることは多く、そんなときは大門沢川を越えてサトの神に祈願をし、心の安寧を求めたのです。そんな蟻ヶ崎で、開校翌年からまったく動くことなく、この地にあり続けたのが本校だったのです。

本校では、一二〇周年記念事業の一環として、多くのかたにご協力いただき、敷地内の樹木調査を実施しました。その成果については、今回の記念誌『つなぐ』に掲載されている巢山和子事務長の「樹木調査から

見えてきたゆかりの人々と時代」をぜひご参照ください。特に、松本高等女学校が開校した明治三十四年から五年後の明治三十九年という年に、伊東祐亨・乃木希典・福島安正の三將軍が来校して、敷地の南側の元正門側にいちようを手植えします。このとき他の学校にも立ち寄っているようですが、本校の正門に母性を表すいちようを手植えしたということが、なにやら象徴的なことに思われてきます。

本校の旧講堂には、女子教育の理想「温良貞淑」の扁額が早くから掲げられていました。しかしこの語に対する生徒の心持ちには時代の流れに沿って微妙な変化があったとされ、のち、特に戦後の新憲法新学制の下では、生徒のあいだに反感さえ生まれていたようです。昭和二十九年には、そのことを示す象徴的なできごともあった、と学校史には記されています。現在、この扁額の所在は明らかではありません。

こうして、本校の生徒会は、戦後クリティカルな方向へ大きく舵を切っていくきます。新制高校発足後、新聞委員会が絶えず安定した批判精神をもって発行してきた『蟻ヶ崎高校新聞』が、昭和六十三年度末をもって廃刊となり、かわって雑誌『ラジカル』が創刊されます。これは他校に類例を見ない「写真定期行物」とでもいうべきもので、編集委員会の発行による生徒会誌『蟻ヶ崎』とはまた別の存在感を示しつつ、いまに続いています。

こうして、校是「温良貞淑」に根差す学校でありながら、広く文字通り「ラジカル」な世界にも目を向けるという、両義的な学校カラーができてまいります。

松本蟻ヶ崎高校は地域のかたがたに支えられながら歩みを続けてまいりました。いまとなつては松本駅にいちばん近い場所に立地している高校として、今後地域のために何ができるかを考えていかなければなりません。「地域活動」「探究学習」「学力向上」を三位一体のものとして捉え、また「文化芸術」を本校の「柔らかい共通教養」と位置づけて大切にしながら、蟻高での深い学びを進めるとき、いずれそれは校歌に詠われた「愛と真理と人のみち」にまで到達すると信じています。

J R松本駅の改札口のなかに、「望郷」と題された本校書道部の作品が飾られています。「懐かしいこの地に／帰ってくれば／よみがえる／たくさんのお記憶／温かな思いがあふれる／大好きな故郷／おかえりなさい」と書いてあります。創立一二〇周年にあたり、生徒の皆さんにとって、この松本蟻ヶ崎高校が心から「故郷」になるように願っています。最後になりましたが、生徒の皆さんと、ご出席をお控えいただいたご

来賓・ご招待者の皆様、ならびにPTA、同窓会、その他ご関係の皆様がたには、おわび申し上げますとともに、ご理解ご協力に感謝いたします。そして、今後末永く、ご指導とお力添えをたまわれますよう、心よりお願いを申し上げます。ご挨拶いたします。

令和三年十月十六日

長野県松本蟻ヶ崎高等学校長 卷山圭一